



Chitose Rotary Club

村田会長方針
“向上心・相互扶助・親睦”

会長 村田 研一 副会長 高橋 都 幹事 沼田 常好
会長エレクト 川端 清 会計 大澤 雅松
第2510地区ガバナー 細川 好弘 第7グループ・ガバナー補佐 佐々木 昭

ロータリー創立日 1905年2月23日
千歳RC創立日 1967年4月26日

～ 10月は職業奉仕・米山月間 ～

本日の例会（10月18日 第16回）通常例会

担当：ロータリー財団・米山記念奨学委員会

第15回（通算2239回）例会報告
国際ロータリー第2510地区 2012-2013年度 地区大会
日時：2012年10月13日（土）14日（日）11日振替
場所：新ひだか町公民館、HBA北海道市場多目的ホール
担当：三役
ホストクラブ：静内ロータリークラブ
国歌斉唱：台湾・大韓民国・日本
ロータリーソング：我等の生業

○永年出席率100%会員表彰
地区大会において下記の会員が表彰を受けました。表彰者代表の2名のなかに、当クラブの**丹治秀一**会員（在籍40年、90歳）が選出され表彰を受けました。
・40年 丹治秀一、1名 ・25年 小笠原良、佐々木昭、羽山昇蔵、藤本敏廣、4名 ・15年 大西信也、村田研一、2名 ・10年 川端清、高橋都、2名（当クラブ関係分、敬称略）

地区大会

2012～13年地区大会は、10月13・14日、新ひだか町公民館およびHBA北海道市場多目的ホールにおいて1,500余名が参加して行われ、当クラブから27名が登録・参加しました。

細川好弘ガバナー開会の辞



丹治秀一会員（パスト会長）おめでとうございます

◇本会議場 新ひだか町公民館でのスナップ



クラブ紹介で村田研一会長と佐々木昭ガバナー補佐は壇上へ



開会に先立ち、物故者のご冥福を祈り黙とうを捧げました。当クラブの故：曙恒平・佐藤彰二・村松克重・木村照男各会員に改めてご冥福をお祈りします。



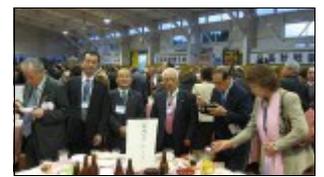
来賓として高橋はるみ北海道知事が登壇され「日頃の奉仕活動に対するお礼と、さらなる尽力に期待します」とのご挨拶を頂きました。

午後は、家庭・教育問題から政治まで幅広い分野に亘って提言を行っている**金美齢氏**が「凜とした日本人」という

テーマで記念講演を行い、ユーモアを交えながら「（日本には）凜とした人がいない」と現在の日本を憂い、「日本の良さ」「日本の持つ強み」を再認識して、忘れてはならないと話し、観衆を魅了する講演でした。



◇懇親会 HBA北海道市場多目的ホールでのスナップ



地区大会 会長・幹事会へ出席

10月13日、13時より新ひだか町公民館において地区大会の会長・幹事会が開かれ、細川好弘ガバナー挨拶に始まり、洪學樑RI会長代理の挨拶のあと、大会決議案の上程審議や2011-2012年度決算報告等が行われました。なお、当クラブの出席者は佐々木昭ガバナー補佐、村田研一会長、沼田常好幹事の3名です。

終了後の14時15分から同会場において地区指導者育成セミナーが開催されました。その中の基調講演で公益法人修養団の久世郁夫氏が講演した「愛と汗の心」は非常に感銘を受ける内容であり、後日、機会があれば例会にてご報告します。

「第1回炉辺談話」と「第2回明日の職業奉仕を考える会」の開催

共催：ロータリー情報・定款細則委員会及び職業奉仕委員会

司会：職業奉仕委員会 副委員長 浅利 美恵子



10月11日（木）18時半より、ANAクラウンプラザホテル2F会議室（石狩の間）において、ロータリー情報・定款細則委員会と職業奉仕委員会との合同による「第1回炉辺談話・第2回明日の職業奉仕を考える会」が、佐藤秀雄パストガバナーはじめ、歴代パスト会長、現会長、新入会員など20名が出席して開催されました。



佐々木金治郎ロータリー情報・定款細則委員会委員長の挨拶に始まり、福田職業奉仕委員長から、前回の「明日の職業奉仕を考える会」のまとめ、本日のテーマ「奉仕（サービス）」について会が進められ、引き続き行われた炉辺談話ではアルコールも用意されて和気あいあいの中、有意義な会の開催となりました。次回開催は、12月13日（木）予定です。



～本日のテーマ「奉仕（サービス）」について～

会長、佐藤秀雄パストガバナー、パスト会長からの「奉仕とは・・・?」「サービスとは・・・?」何か・・・コメントをいただき、また参加者全員からも中味の濃い厚い発言がありました。

・・・配布されたプリントから・・・

◇一般的な辞書によると「奉仕」とは、

① 「勤労奉仕」の如く、国家社会などのために、損得を考えずに尽くすこと。

② 「サービス品」の如く、品物を安く売ること。

③ 「神仏に奉仕する」の如く、つつしんで仕えること。

である。

「Service」＝「人さまの役にたつこと」というサービス精神は、アーサー・フレデリック・シェルドン（以下、「シェルドン」という）が言うように、よりよき社会を作ると共に本人の幸せに通じる。・・・と言うふうに、「サービス」と「奉仕」では、概念が大きく異なる＝「奉仕」は縦社会の言葉であり、「サービス」は横社会の言葉です。

◇「サービス」について、

・ロータリーでは、『ロータリアンの仲間の友情』と『サービスの観念』の2点が日常的に大切である。ロータリークラブは、知人の集まりではなく、友人の集まりなのです。これはロータリーの原則なのです。

・日本語で言う“サービス”ではなく、相手のことを考え、相手のために思い、またそのように行動する、それが幸せの元になるというのが、シェルドンの考えです。

・“人の役に立とう”と言うサーヴィスの精神は、シェルドンが言うように、良き社会を造ると共に本人の幸せに通ずるという考え方を強調しておきます。

・ロータリーの基礎に「サービス」をすえたのは、シェルドンです。「サービス」は、「奉仕」と訳されていますが、意味が違います。「サービス」は相手のことを思い、相手のためになるような行為、相手をおもんばかった行為です。

・相手のことを思い、相手のためになる行為、サービスというのは、短い目で見れば別ですが、長い目で見れば、信用を増し、延いては企業の繁栄をもたらす。そして本人の幸福に通ずる。それがロータリーの原点と申しますか。シェルドンの説く ところです。

◇「職業奉仕とは」＝ ロータリーの金看板

「職業奉仕」という言葉は、辞書には載っていないロータリー独自の言葉です。職業というのは、生きていくための所得を得る手段であり、奉仕と世のため人のために見返りを度外視して行うものです。元来、専門職業人というのは、「自分の技術を社会に提供する、即ち社会に奉仕する」ことによって生計をたてているのです。その結果、感謝の念のこもった報酬を受け取ったとしても、自分から対価を請求することはできません。相手の身分によらず、報酬の高い安いによらず、自分の持てる技術を最大限に発揮し提供することが義務付けられているのです。たとえ見返りがなくても人々を助けるのが「専門職業人の職業観」です。報酬を受けるために仕事をしているのではなく職業を通じて社会に奉仕したから、その結果として報酬を受けているのです。

（職業奉仕委員会 副委員長 浅利 美恵子）

出席率

今回：52.9%（10月14日＝27/51、実数）

確定：84.3%（10月24日＝43/51のうちMu13名）